

参考資料

承認	審査	起案	検査規格	文書番号一版	TS 1013-1
				ページ	1/2
			漏れ検査	制定 改訂	2007. 6. 29

1. 適用範囲

本規格は、排水用管継手等の鋳鉄製本体の漏れ検査について規定する。

2. 検査項目・検査方法

下記の漏れ検査は、全数目視検査とする。

検査方法	水没式エア－漏れ検査	空気圧式水漏れ検査	水圧式漏れ検査
検査機	水没式エア－漏れ検査機	HQジョイント組立漏れ検査ライン	水圧ポンプ+圧力計
対象製品	排水用管継手の鋳鉄製本体	HQ二段口継手・100, 125	LJ-K125×200
受入検査・確認	漏れ検査前に全数受入検査または確認（外観・内面バリ・ロット識別記号）を行い、検査結果を記録する。		
検査条件			
検査圧力	0.15MPa（空気圧）	0.09MPa（空気圧）	0.35MPa（水圧）
検出時間	5～10秒	10～20秒	1分
判定基準	本体及び組立部分より漏水がないこと。 ・本体より漏れを検出した場合は、すべて不合格とする。 ・組立部分より漏れがあった場合は、組立不適合として組立工程へ返却し、再組立を指示する。		
検査合格品の処置	不適合品管理規定による。		
関連規格	JIS B 2303 「ねじ込み式排水用継手」	SHASE-S 206-2000 ^{※1)}	MDJ 002-99 「排水管用可とう継手」

※1) 解説

同規格・解説 満水試験の項に試験圧力は30 [kPa] とある。

これは水頭3 [m] に相当するが、実際のオフィス棟においては階高が5 [m] 余のものが有り、当社の満水試験圧は、50 [kPa] (0.05 [MPa]) で行っている。

さらに給水系水圧試験の決め方にならい、検査圧を実際圧の2倍 $0.05 \text{ [MPa]} \times 2 = 0.1 \text{ [MPa]}$ とした。

なお、0.09 [MPa] の空気圧で継手内の注入水を加圧した場合の水圧は、約0.1 [MPa] であることが事前の検証により確認されている。

3. 取扱い

- ① 本体からの錆の発生を防止するため、検査水に適量の防錆剤を混入する。
- ② 検査合格品は、よく乾燥させる。
- ③ 塗装付本体の場合は、塗料のハガレ・キズを防ぎ、取扱いに細心の注意を払う。